

欧州、グリーン政策の再定義

～欧米摩擦、中国との競争、そして域内対立に揺らぐ欧州の選択～

— 講師 — 一般社団法人デロイト トーマツ戦略研究所 フェロー 平木 綾香 氏

日 時 2026 年 9 月 2 日 (水) 午後 3 時～ 5 時
受講方法 ライブ配信／アーカイブ配信(2 週間、何度でもご視聴可)

〔重点講義内容〕

欧州のグリーン政策は今、転換期にある。背景にあるのは、米国現政権の政策転換による不確実性、中国との競争、そして EU 域内の政治・経済的対立という三重の構造的圧力である。

特に対中文脈では域内産業保護を求める声が高まっている。2026 年 3 月に提案された「産業加速法案(IAA)」に象徴されるように、脱炭素化を従来の環境目標から EU 主導の「産業・経済安全保障政策」として捉え直そうとしている。EU 炭素国境調整メカニズム(CBAM)や排出量取引制度(ETS)などといった既存の環境ルールが本格的な施行・運用段階を迎える中での新たな枠組みへの再定義は、理念と実利を混在させ、ビジネスの予見可能性を著しく低下させている。

欧州はどこへ向かうのか。本講義では、欧州のグリーン政策を整理しながら、欧州の対米・対中政策や域内の対立軸を地政学の観点から読み解く。

1. 欧州グリーン政策の全体像—「環境」から「経済安保」
2. 欧米摩擦—なぜ米国は環境規制緩和を迫るのか
3. 中国との競争—本格化する対中デリスキングの措置とは
4. 域内の議論動向
—グリーン政策は域内産業の競争力を高めるのか、弱体化させるのか
5. 日本への波及と今後の展望
6. 質疑応答

PROFILE 平木 綾香(ひらき あやか)氏

官公庁、外資系コンサルティングファームにて安全保障貿易管理業務、上場企業の経済安全保障リスクアセスメント・戦略策定支援などに従事してきた。デロイトトーマツでは、シンクタンク部門の立ち上げ・拡大に寄与。政策ビジョンの立案、発信支援にも携わる。専門分野は、国際政治経済、安全保障、アメリカ政治外交。慶應義塾大学大学院(修士)。

